

Media Information

2022年4月3日

2022年 ラウンド1 レース3

澤龍之介選手が開幕富士大会を完全制覇、開幕3連勝を達成！

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ) 2022のレース3が富士スピードウェイで行われ、3号車の澤龍之介選手 (Sutekina Racing) が2位以下に20秒もの大差をつけ、レース1、2に続くポール・トゥ・ウィンで今週末3勝目を飾り、開幕富士大会を完全制覇する格好となりました。



今週末最後のレースとなるレース3は、直前に雨脚が強くなったこともあり、様子を見ながら10分遅れでスタート進行に。レース2につづきセーフティカー先導でレースが始まり、4周目に入るところでグリーンフラッグが振られレーシングスピードとなり、本格的にレースのスタートとなりました。

午前中に行われたレース2では、思うようにペースを上げることができず苦戦したため、インターバルの間にマシンを調整し、レース3に臨んだ SUTEKINA RACING TEAM の澤選手。それが功を奏し、序盤から力強い走りを披露。2番手の97号車、小川颯太選手 (Bionic Jack Racing Scholarship FRJ) や3番手の8号車、小山美姫選手 (TGR-DC F111/3) が2分00秒を切れないなか、澤選手はいち早く1分59秒台を記録すると、その後も周回を重ねるごとにファステストラップを更新していき、9周目の時点で後続に対して10.7秒のリードを築きました。

一方、マスタークラスでは11号車のHIROBON選手（Rn-sportsF111/3）が、レース2同様に安定した走りを見せ、途中は総合4番手を走行。9周目に6号車の片山義章選手（Team LeMans F111/3）とのバトルの際にコースオフやスピンを喫してしまう場面がありましたが、クラストップの座はしっかりと守り、ゴールを目指しました。

総合トップの澤選手は、レース終盤までペースを緩めることなく、12周目には1分57秒170のファステストラップを記録。今回も15周を迎える前に上限時間の30分に達したため、13周でチェッカーフラッグが振られ、2番手以下に20.2秒もの大差をつける独走劇を披露し、澤選手が開幕3連勝を達成。2022年ラウンド1では3レース全てでポールポジション、ファステストラップ、優勝を記録する完全制覇を成し遂げました。2位には小川選手が入り開幕富士大会初表彰台を獲得。3位には小山選手が続きました。

マスタークラスは、HIROBON選手が開幕3連勝を達成。クラス2位争いは最終ラップに1秒差を切る接近戦となりましたが、14号車の田中優暉選手（アスクレイ☆イーグルスポーツ）が0.5秒差で逃げ切り2位を獲得し、4号車の今田信宏選手（JMS RACING with B-Max）がクラス3位となりました。

◆レース2優勝 澤龍之介選手コメント

「レース2では全体的にペースが遅かったのですが、レース3に向けてセッティングを大幅に変えて臨みました。とは言え、スタート前は不安があったのですが、スタート後セーフティカー先導中に、フロントの動きや感覚から『これはいける!』という確信を得ることができました。グリーンフラッグが振られてからの1周目からプッシュして、気持ちよく走れました。本当に平野エンジニアに感謝しています。思うように走れなかったレース2でのストレスを発散できました。」

◆レース2 マスタークラス優勝 HIROBON選手コメント

「途中、片山選手と競り合う場面もありましたが、僕自身、レース2と比べて少し頑張っていてみようと思っていたら、スピンしてしまいました。この週末は初めてのFRJのレースでしたが、雨のコンディションも経験できて良かったです。でも、ドライコンディションも含めて課題はまだまだまだたくさんあるので、その辺を次のレースまでに良くしていきたいですね。」

以 上